

出産後の性機能回復と追加出産意欲

Sexual function recovery in postpartum and desire to additional child

早乙女智子(京都大学・院)

Tomoko Saotome (Kyoto University)

kongo.tomow@gmail.com

緒言) セクシュリティは、生殖、快楽、親密さの複雑な要素を持っている。妊娠中や産後の過程でカップルは、性的に身体的、精神的、関係性の変化に直面する。カップルが生殖という目的を満たしたとき、産後のいつどのように性機能が変化するのか、横断調査を行うことによって産後のどの時期にカップルに変化が起こるかを調べた。

方法) 2015年3月16日から5月16日までの2か月間に、横浜の病院で出産予定または出産した502組の妊娠中と産後のカップルを対象に行い、127組の同意ある回答を得た。男性パートナーの性機能は低下することが予想されたため、それぞれFSFI(female sexual function index:女性性機能インデックス)およびIIEF(international index of erectile function:勃起機能評価インデックス)を用いた。データはJMPpro.11.2.0で分析し、統計的有意差はwilcoxon testで行った。妊娠初期群15組、妊娠中期群26、産後1か月21、産後3か月22、産後6か月21、産後12か月22組である。

結果) 男女とも産後1か月と3か月で性機能が低かった。女性では、性欲、興奮、潤滑、オルガスム、痛みの項目が下がり、満足度だけは低下しなかった。男性の性機能は、6か月、12か月で比較的高く、総合満足度を除いて各群間のそれぞれのカテゴリで差はなかった。総合満足度はすべての時期で保たれていたが、実際の性的活動は妊娠中や産後1か月では少ない。この乖離は性的活動が減ってもそれを上回る関係性を示唆する。

興味深いのは、例数は少ないが、夫立ち合いした群(48例)14.85±9.73と比較して、しなかった群(4例)4.2±0.43は、 $p < .0001$ と優位に低かった。帝王切開を含めて23例は立ち合いできなかったが、13.97±8.93で立ち合い群と差はなかった。立ち合いをしないということが、身体感覚の認知の低下や性機能の低下と関連している可能性がある。

追加出産の有無では、あり(n=30)17.31±8.56、なし(n=23)12.81±10.24、 $p=0.0418$ 、わからない(n=21)11.12±8.81、 $p=0.025$ で、Wilcoxon符号順位検定で追加出産ありの群で優位に高かった。

性機能スコアはそれぞれ、FSFIでは10未満、IIEFでは15以下を低機能としている。性

機能が双方低い LL 群 22 組(16.1%)、妻だけ低い LN 群 53 組 (38.7%)、夫だけ低い NL 群 6 組 (4.4%)、双方正常群 NN 群 56 組 (40.9%) の 4 つのグループに分けられた。妊娠中期と産後 1, 3 か月に N-L 群はおらず、産後 1 か月では L-N 群が 10 組 (47.6%) と多かった。LL 群の平均 FSFI は 4.51 ± 1.81 、IIEF は 10.31 ± 3.68 だった。女性の得点が低いのは、性欲 desire と 性的満足 satisfaction 以外の項目が、性的興奮でわずかに得点があった一人を除いてすべてゼロだった、つまり、性行為がなかった群である。しかし、彼女らの F5(satisfaction)は 3.07 ± 1.93 で、産後 86 組の平均 3.55 ± 1.58 より低いものの、 $p=0.28$ で有意差はない。男性の IIEF 低値に関しては、オーガズムと性交の満足度の項目が、オーガズムで得点があった一人を除いてすべてゼロだった。LL 群は、いわゆる産後セックスレス群ということになる。しかし、勃起機能はあり、性欲もあり、性交はないが総合的にはほぼ満足していた。全体を通してみると、性機能が低かった男性は 20.5%で、女性は 57% だった。女性では、性欲と満足の項目は他の項目と違って差が見られなかった。興奮、潤滑、オーガズム、疼痛の項目は産後を中心に低下していた。男性の身体はパートナーの妊娠中、何も変化がないにも関わらず、IIEF のカテゴリの中で性欲を除いて、勃起機能、オーガズムは女性と並行して低下した。性交満足度は妊娠中や産後すぐは満たされにくく、産後 6 か月と 12 か月は優位に高い。しかし興味深いことにこれらの変化は妊娠というパートナーの状況の変化によるもので、性交満足度と違って総合満足度にはほとんど有意差がなかった。とはいえ、男性は性交と満足度のカテゴリが強く関係している。性交がなかったと回答している 66 人の男性の満足度スコアは 4.59 ± 2.56 であり、性交があると答えた 61 人の男性の満足度スコアは、 6.49 ± 2.19 で $p < .0001$ と有意差があった。

考察) 先行研究では、妊娠中や産後の何らかの障害が性機能を低下させると報告されている。リンダ・ブルベイカーらは、90%の女性は産後 6 か月には性交を再開しているということを示している。1999 年に、キルステンとシドウは妊娠中と産後の性機能に関してメタ解析を行い、カップルでの研究はわずかであることを指摘している。本研究では、産後一年では男女とも性機能が妊娠前とほぼ同様レベルに回復していたと考えられる。男性と女性の性機能の回復にかかる数か月間の差が問題であり、そこには性行動と満足度の乖離の謎がある。日本では「二人目不妊」と言われる産後のセックスレスが増加しており、産後のカップルの危機に直面している。また、「できちゃった婚」と言われる妊娠先行型結婚も増加しているが、今回の調査ではそうした影響は明らかにできなかった。性機能低下群では、性交がない割に満足度は妨げられておらず、産後という特殊性を理解しているようにも思われる。しかし、男性の満足度と性交は相関しており、男女の差が開きやすい時期でもある。追加出産の希望がある場合は、性機能が高く、わからない、と回答した群では男女とも低かった。

結語) 出生意欲と産後の性行動では、追加出産の意欲の有無で有意差があった。間接的には立ち合い出産の有無で性機能に差が出るなど、性機能の回復には出産を取り巻く環境整備の影響も考えられた。